



2024年3月期 第2四半期 決算説明資料

2023年11月6日
ジーエルサイエンス株式会社
東証STD (7705)

目次

2024年3月期 2Q

- ハイライト P.4
- 決算概要（2024年3月期 第2四半期）
 - ・ 全社 P.6
 - ・ セグメント別 P.8
 - ・ 施策と進捗状況 P.17
- 業績・配当予想等（2024年3月期） P.18
- 直近のトピックス P.22

全体戦略

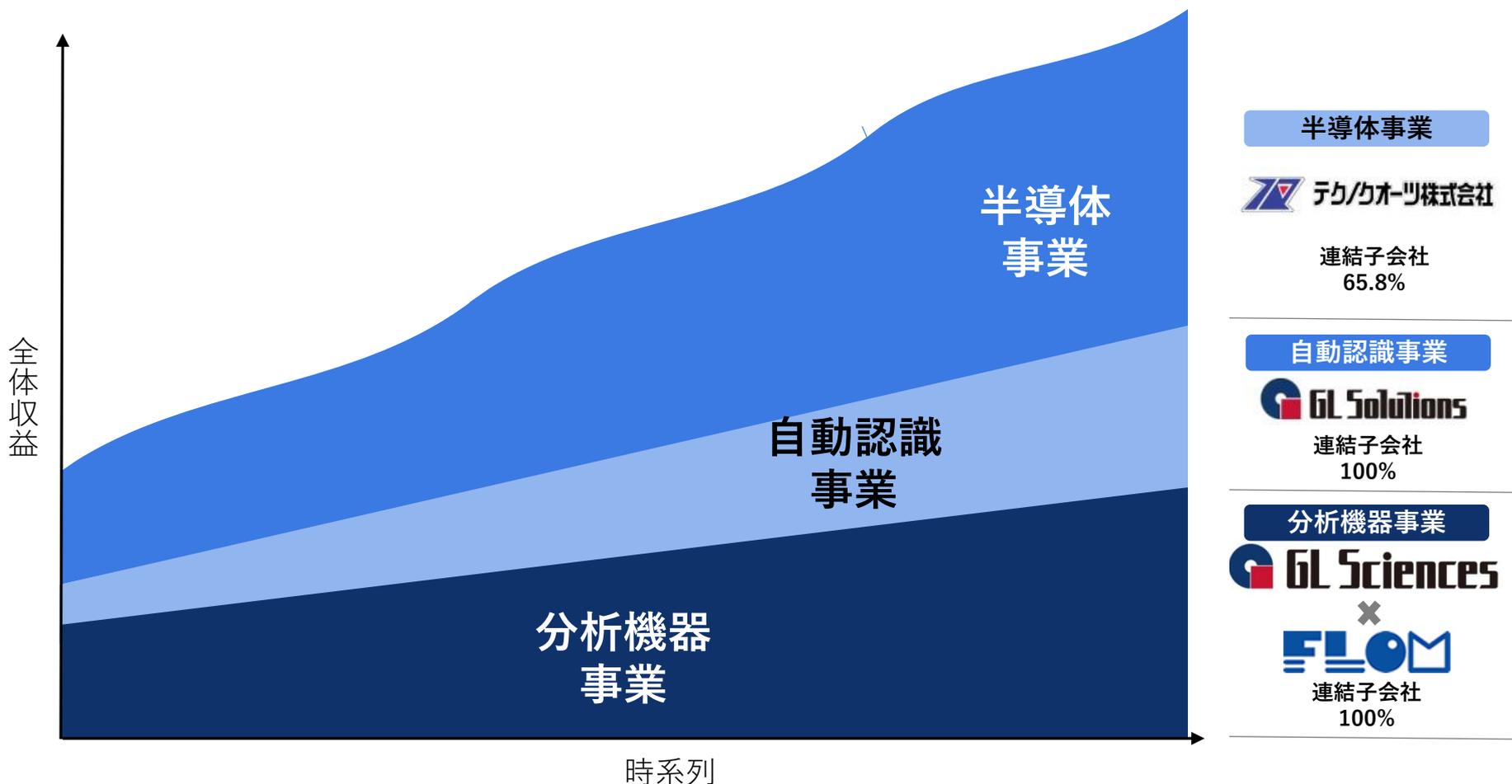
2024年3月期 2Q

3つの事業で成長拡大を推進します。

分析機器事業 (安定成長事業)

半導体事業 (高成長事業)

自動認識事業 (新規事業)



ハイライト

2024年3月期 2Q

1

【全社】減収・減益

売上高： 17,135百万円 ▲4.0% ▲716百万円 (前2Q：17,851百万円)

営業利益： 2,536百万円 ▲7.3% ▲198百万円 (前2Q：2,734百万円)

2

【分析機器事業】増収・増益

売上高： 8,064百万円 +9.9% +724百万円 (前2Q：7,339百万円)

営業利益： 779百万円 +19.3% +126百万円 (前2Q：653百万円)

(要因) 【増収】消耗品(多分野にて) + 【増収】装置 + 【好調】海外

3

【半導体事業】減収・減益

売上高： 8,189百万円 ▲16.7% ▲1,638百万円 (前2Q：9,827百万円)

営業利益： 1,709百万円 ▲17.2% ▲355百万円 (前2Q：2,065百万円)

(要因) 【需要低下】スマートフォン向け半導体

【需要堅調】再生可能エネルギー等の分野

4

【自動認識事業】増収・増益

売上高： 881百万円 +28.8% +197百万円 (前2Q：684百万円)

営業利益： 48百万円 +302.1% +36百万円 (前2Q：11百万円)

(要因) 【好調】住居関連や医療関連 + 入退室セキュリティ装置用の機器組込製品

決算概要（2024年3月期 第2四半期） （全社）

決算概要 (全社)

2024年3月期 2Q

減収・減益

分析機器・自動認識は増収増益も、半導体が需要低調

【分析機器事業】 **増収増益**：多くの分野で増収、特注システム製品、海外売上も好調

【半導体事業】 **減収減益**：メモリーを中心に在庫が滞留

自動車や再生エネルギー関連用途などは需要堅調

高水準の受注残高を引き続き維持

【自動認識事業】 **増収増益**：全てのサブセグメントで増収増益

単位：百万円	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率	増減額
売上高	17,851	17,135	▲4.0%	▲716
営業利益 (営業利益率)	2,734 (15.3%)	2,536 (14.8%)	▲7.3% (-)	▲198 (▲0.5pt)
経常利益	3,113	2,726	▲12.4%	▲387
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,526	1,496	▲2.0%	▲30

決算概要 (2024年3月期 第2四半期) (セグメント別)

セグメント概要

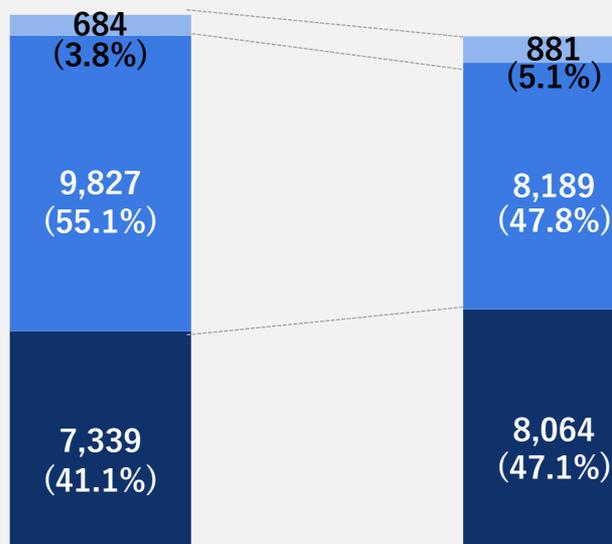
2024年3月期 2Q

【売上高】 : 分析事業と半導体がほぼ同額で**95%**

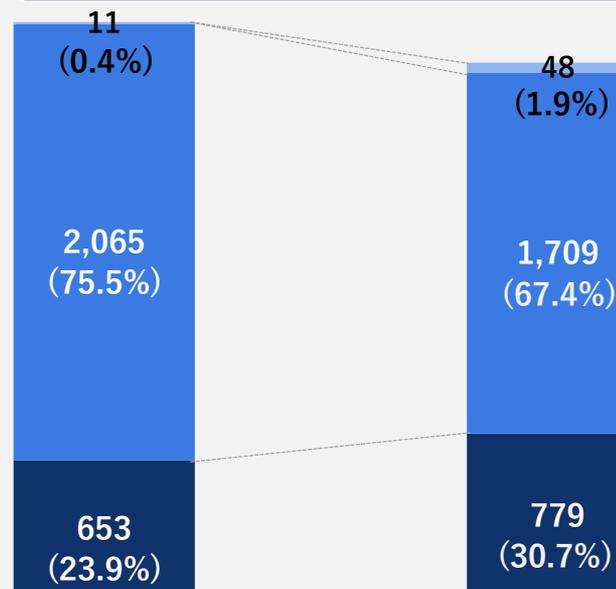
【営業利益】 : 半導体が**約7割**、分析が**3割**

単位：百万円、%	売上高	売上高構成比	営業利益	営業利益構成比
分析機器事業	8,064	47.1%	779	30.7%
半導体事業	8,189	47.8%	1,709	67.4%
自動認識事業	881	5.1%	48	1.9%

売上高



営業利益



■ 分析機器事業 ■ 半導体事業 ■ 自動認識事業

決算概要 (セグメント別) 分析機器事業

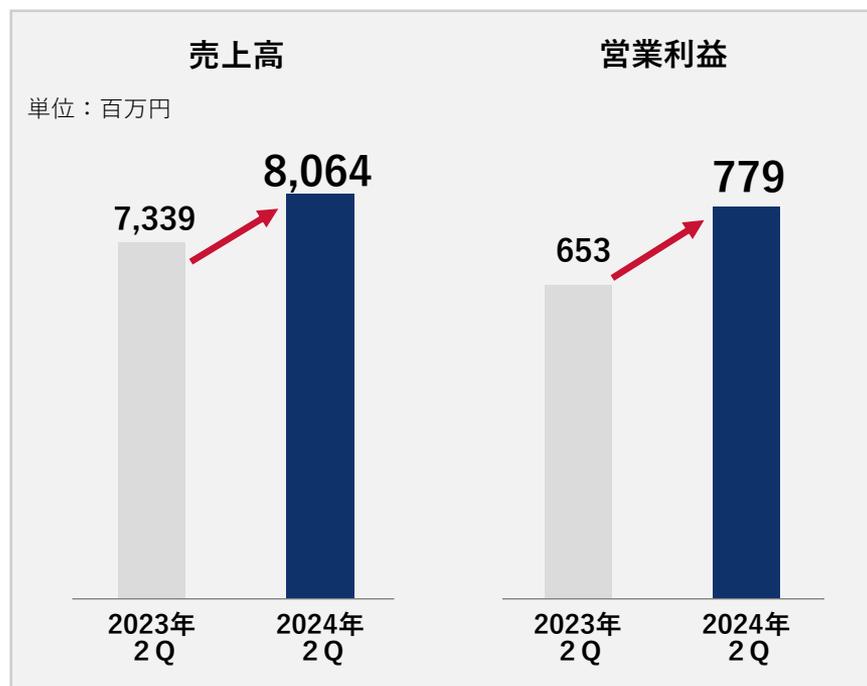


2024年3月期 2Q

増収・増益

【増収】消耗品（多分野にて）＋【増収】装置＋【好調】海外

単位：百万円	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率	増減額
売上高	7,339	8,064	+9.9%	+724
営業利益	653	779	+19.3%	+126



要因・その他

<国内売上高>

【増収】

- ・ 消耗品が多く分野で増収
 - 特に標準試薬、LC部品、GC部品、試料採取関連、アフターサービス関連が好調
- ・ 装置も増収
 - 製薬、環境、水質分析分野の質量分析計関連製品
 - カーボンニュートラル分野の特注システム製品

<海外売上高>

【増収】

- ・ ほぼすべての地域で医薬品市場が拡大
 - 液体クロマトグラフ用カラムを中心とする消耗品がアジア、欧州、中南米で好調
 - 海外企業向けOEM製品も引き続き好調

分析機器事業（他社比較）

2024年3月期 2Q

日本国内では**分析に関する技術的知識も有する営業部隊**が、顧客のニーズに合わせた**アプリケーション提案**からの**装置販売**と、導入後も必要になる**消耗品販売**を中心に展開

	売るもの	製品知識	販売後	利益率
一般的な 装置メーカー	自社製品のみ	自社製装置に限り ◎	メンテナンスと 更新の対応が中心	◎
一般的な 販売店	契約している メーカーの 製品を幅広く	多様な製品を 取り扱う反面、 専門領域に関しては メーカーのサポート を要する場合もある	消耗品も随時案内 技術相談の 対応可能範囲は 限定的	△
ジェエルサイエンス	自社 + 他社製品	自社製品の 知識を応用 することで 他社製品も◎	消耗品も随時案内 技術相談に対応 するだけでなく アプリケーション (応用データ) も提案	○ 自社製品販売により、 純粋な販売店よりも 利益率は良い

分析機器事業（地域別）売上高推移

2024年3月期 2Q

国内が**7割強**、海外が**3割弱**（主にアジア） いずれも堅調

（単位：百万円）

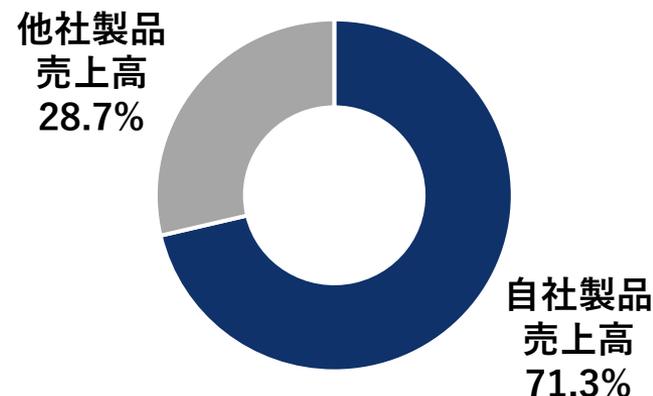
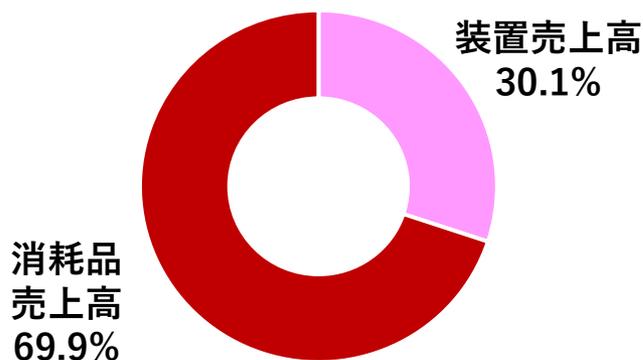
	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比		2024年3月期 第2四半期 構成比(%)
			増減比(%)	増減額	
国内	5,422	6,030	+11.2%	+607	74.8%
海外	1,916	2,034	+6.1%	+117	25.2%
北米	220	280	+27.2%	+59	3.5%
アジア	1,246	1,282	+3.0%	+36	15.9%
その他	450	471	+4.6%	+20	5.8%
分析	7,339	8,064	+9.9%	+724	100.0%

分析機器事業 販売形態別比率

2024年3月期 2Q

分析機器事業における売上高構成割合

消耗品と自社製品がそれぞれ7割前後を占める



ジーエルサイエンス単体（国内売上高）における分野別売上高構成割合

化学・工業分野が主体

期	化学・工業	大学・官公庁	製薬・生化学	食品・環境
2024年3月期 1-2Q	41.3%	20.9%	19.6%	18.3%
2023年3月期 1-2Q	39.6%	20.8%	19.8%	19.8%

決算概要 (セグメント別) 半導体事業

2024年3月期 2Q

減収・減益

【需要低下】スマートフォン向け半導体
【需要堅調】再生可能エネルギー等の分野

単位：百万円	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率	増減額
売上高	9,827	8,189	▲16.7%	▲1,638
営業利益	2,065	1,709	▲17.2%	▲355



要因・その他

【 - 需要低下】

- ・メモリーを中心に在庫が滞留

【+ 市場動向】

- ・自動車や再生可能エネルギー関連用途は需要堅調
- ・生成AI分野での需要拡大
→新規需要の掘り起こしなど、業務改善活動を推進

【+ 受注残】

- ・高水準の受注残高を引き続き維持

半導体事業（地域別）売上高推移

2024年3月期 2Q

国内・海外ほぼ同等割合

(単位：百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比		2024年3月期 第2四半期 構成比(%)
			増減比(%)	増減額	
国内	4,863	4,016	▲17.4%	▲846	49.0%
海外	4,963	4,172	▲15.9%	▲791	51.0%
北米	438	320	▲26.8%	▲117	3.9%
アジア	4,522	3,846	▲15.0%	▲676	47.0%
その他	3	5	+75.4%	+2	0.1%
分析	9,827	8,189	▲16.7%	▲1,638	100.0%

決算概要 (セグメント別) 自動認識事業

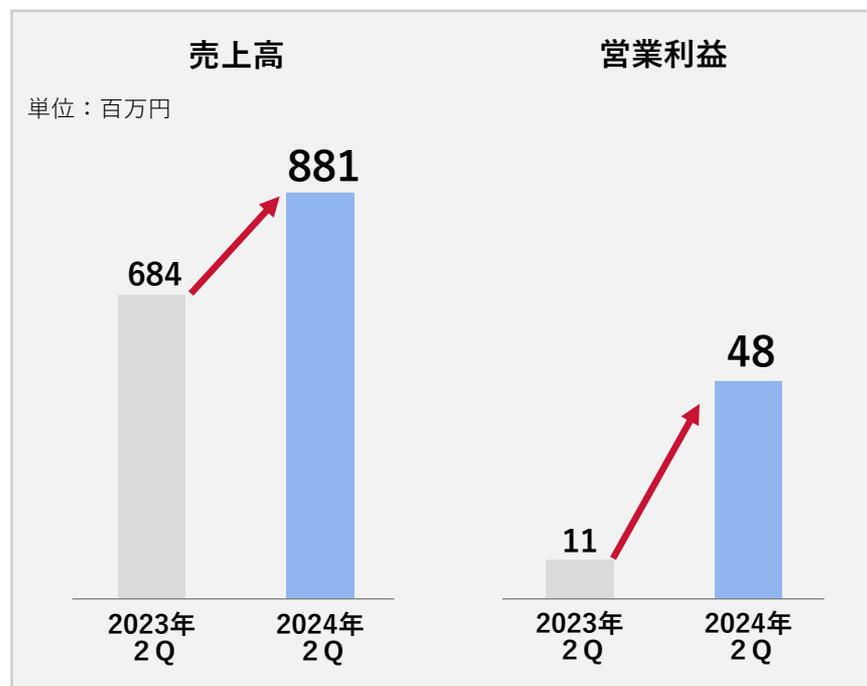


2024年3月期 2Q

増収・増益

【好調】住居関連や医療関連＋入退室セキュリティ装置用の機器組込製品

単位：百万円881	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率	増減額
売上高	684	881	+28.8%	+197
営業利益	11	48	+302.1%	+36



要因・その他

全てのサブセグメント（「機器組込製品」「完成系製品」「その他」）において増収増益

【+改善傾向】

- ・半導体問題による上位装置の生産停滞が解消
→ 機器組込製品および高機能タグの出荷ペースが回復

【+堅調に推移】

- ・住居関連施設、医療関連装置に加えて、
入退室セキュリティ装置用の機器組込製品も

【+新規導入推進中】

- ・物品管理用途向けUHF帯ICタグの取り組み開始
→ 建築仮設資材のレンタル品管理など
新規市場への伸長を目指す

施策と進捗状況

2024年3月期 2Q



各セグメントで業績改善に向けた取り組みを積極的に推進

施策

進捗状況（1-2Q）

	施策	進捗状況（1-2Q）
分析機器事業	・ LC充填カラムの販売強化	・ 海外での売上が牽引し、数量・金額ともに前期を上回る推移
	・ 次世代エネルギー・カーボンニュートラル関連領域の事業拡大	・ 売上は引き続き好調。ガスクロマトグラフのシステムはアンモニア分析の他、CO ₂ からメタン等の燃料ガスを合成することを目的とした研究にも貢献
半導体事業	・ アメリカの対中国輸出規制への対応	・ 直近に大きな動きはなく、引き続き今後の規制強化リスクに備えた中国国内の半導体製造装置メーカーへの営業活動を推進
自動認識事業	・ セキュアマイコン搭載機器の市場投入	・ 大手セキュリティ企業向けの完成系製品のOEM開発、公共交通分野向け機器組込製品の搭載用途拡張へ
	・ パーキング市場向けソリューションの提供開始	・ 第1四半期に試作開発分の納入を完了し、第2四半期はトリアル装置での性能評価、市場実環境での検証、量産開発に関する協議を開始

業績・配当予想等 (2024年3月期)

業績・配当予想（2024年3月期）

（予想）減収・減益、純利益は前年並み

（全社）

10月31日付で通期の業績及び配当予想の修正を発表しております。

単位：百万円	2023年3月期 実績	2024年3月期 （予想） 修正前	2024年3月期 （予想） 修正後	増減率 （前期比）	増減額 （前期比）
売上高	38,679	38,240	36,540	▲5.5%	▲2,139
営業利益	6,034	5,650	5,780	▲4.2%	▲254
営業利益率	15.6%	14.8%	15.8%	-	+0.2pt
経常利益	6,468	5,710	6,050	▲6.5%	▲418
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,499	3,150	3,500	+0.0%	+0
年間配当(円)	65	60	70	-	+5

<業績予想修正理由>

売上減（要因）

【半導体事業】

- ・半導体業界におけるメモリーの在庫調整の長期化
- ・スマートフォン・PCの需要の減少

当期純利益増加（要因）

・国庫補助金受贈益の影響

（半導体事業（アイシンテック）への補助金）

<配当予想>

60円→70円（10円増配）

業績予想（2024年3月期）

（セグメント別）

【分析機器】 増収・増益 【自動認識】 大幅な増益率 【半導体】 減収減益

単位：百万円		2023年3月期 実績	2024年3月期 (予想) 修正前	2024年3月期 (予想) 修正後	増減率 (前期比)	増減額 (前期比)
分析機器事業	売上高	17,163	17,530	18,310	+6.7%	+1,146
	営業利益	1,888	1,880	2,220	+17.5%	+331
半導体事業	売上高	20,003	18,930	16,450	▲17.8%	▲3,553
	営業利益	4,068	3,660	3,470	▲14.7%	▲598
自動認識事業	売上高	1,513	1,780	1,780	+17.6%	+266
	営業利益	67	110	100	+47.5%	+32

進捗率

2024年3月期 2Q



2Qで50%弱を達成

下期は、例年下半期の寄与が大きい分析機器事業を中心に売上拡大を目指す

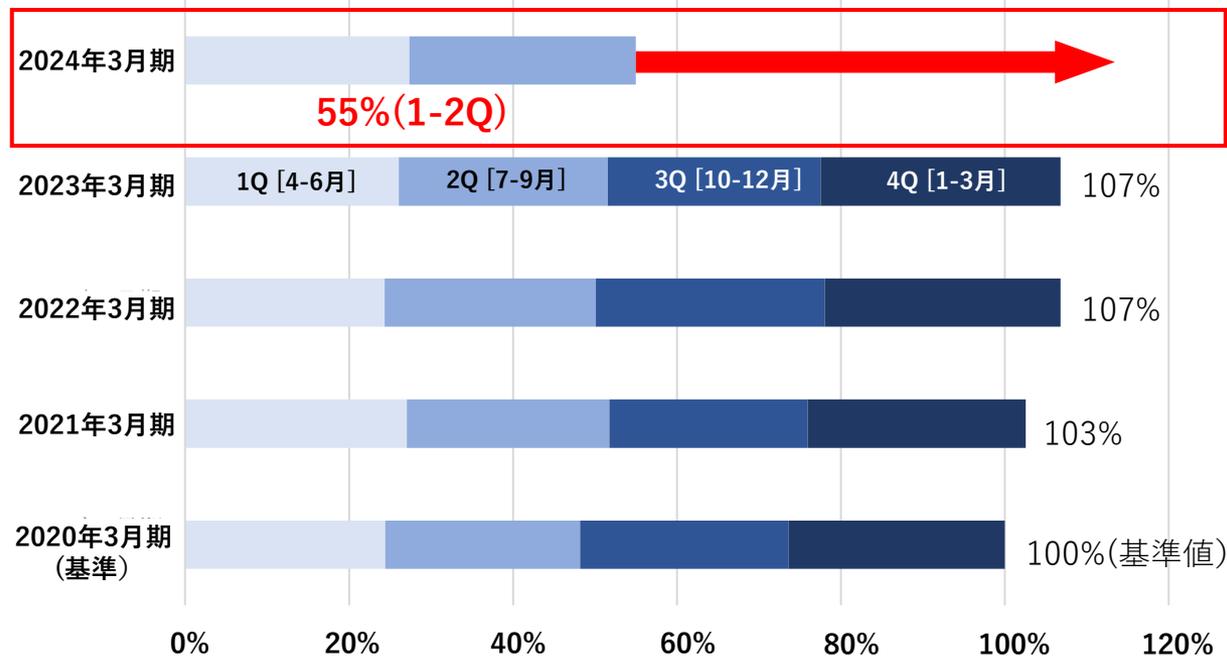
単位：百万円		2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	2024年3月期 (予想)修正後	2024年3月期 (進捗率)
売上高	分析機器事業	7,339	8,064	18,310	44.0%
	半導体事業	9,827	8,189	16,450	49.8%
	自動認識事業	684	881	1,780	49.5%
	売上高合計	17,851	17,135	36,540	46.9%
営業利益		2,734	2,536	5,780	43.9%
経常利益		3,113	2,726	6,050	45.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (当期純利益)		1,526	1,496	3,500	42.8%

直近のトピックス

2024年3月期 2Q

自社製消耗品「イナートファミリー※」販売好調

2020年3月期(コロナ前)におけるイナートファミリーの年平均の売上金額を100%として算出した場合、2024年3月期第2四半期は、**55%**の進捗



注：ジーエルサイエンス単体の数値（連結対象となる海外子会社としての売上金額は含まず）

※イナートファミリー：分析機器事業の**自社製消耗品**の中でも、利益貢献度が非常に高い主力の製品群
中心製品は**自社LCカラム**、**固相抽出カートリッジ**、**GCカラム**の3種類

2024年3月期 2Q

ラボラトリー情報管理システム 「GLIMS(ジーリムス)」 新発売

GLIMS (ジーリムス) は、『様々なラボにマッチする**柔軟なシステム**』といったカスタマイズ性の高さをコンセプトに開発した、**ラボラトリー情報管理システム(LIMS)**です。
分析業務における進行状況やトレーサビリティ・証跡記録、サンプル・分析情報などを一元管理し、ラボの生産性向上および信頼性向上の実現、そしてDX対応やリモートワークを支援します。



【ポイント】

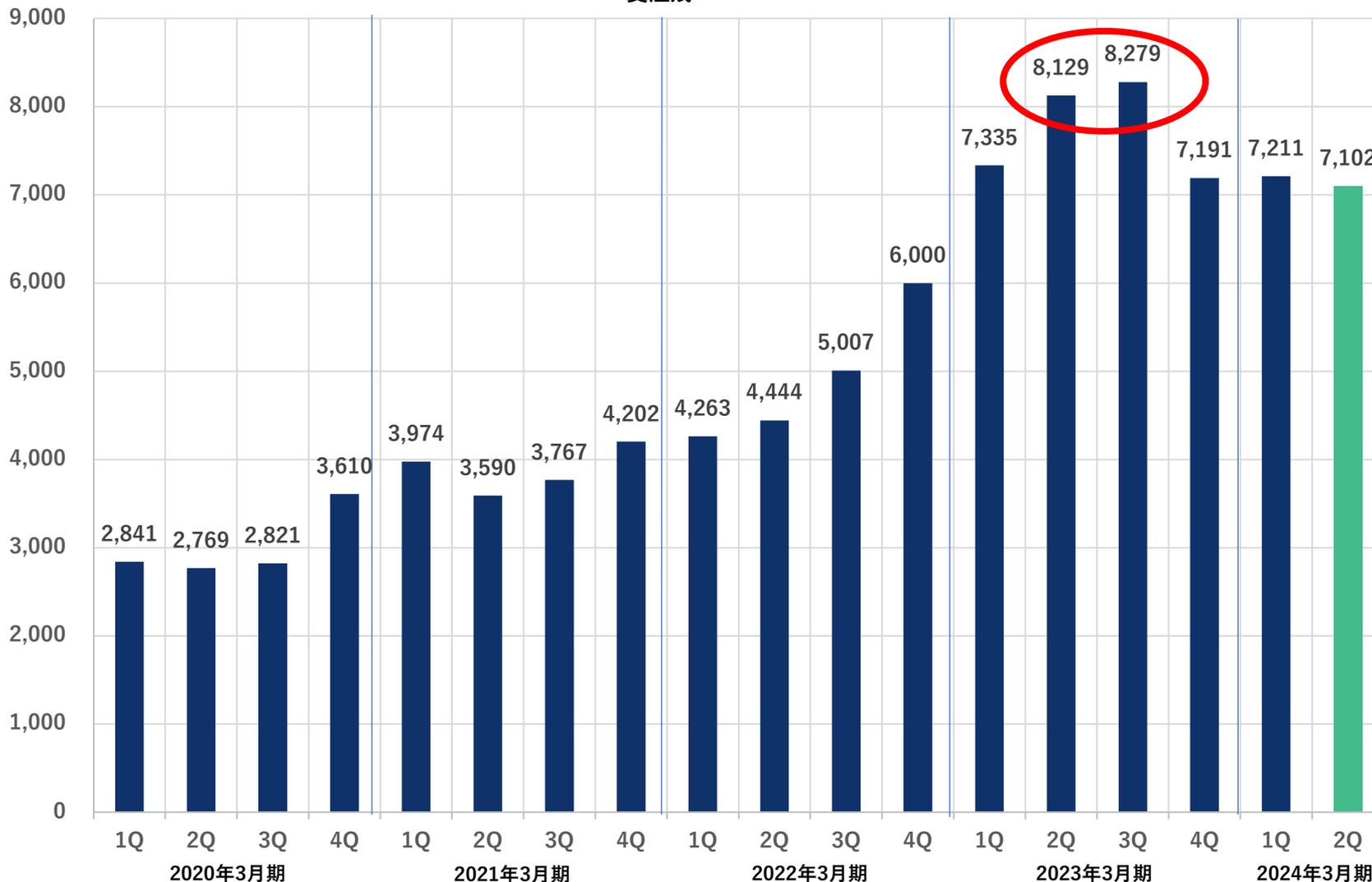
- ラボで取得される**データを一元管理**
- 分析の中身がわかっている**ジェーエルサイエンス**がお客様の事情に合わせて**要件定義**
- CSV (Computerized System Validation) にも対応
- ジェネリックメーカーを含む製薬企業などに展開予定

2024年3月期 2Q

受注残は引き続き2023年3月期に迫る高い水準で推移

単位：百万円

受注残



「カギ番人smart」 販売開始 (2023年5月)

基本情報

BLE 電子キーボックス



BLE :
Bluetooth Low Energy



適用事例

賃貸住宅	不動産仲介業者の空き部屋立入
建築現場	リフォーム現場のカギ管理
巡回警備	マンションの設備管理
	防災、備蓄倉庫のカギ管理
巡回看護	巡回サービスでのカギ受け渡し
	自宅、別荘などのカギ管理
工場	敷地内特定エリアのカギ管理

- 「必要な時」に「必要な場所」へカギの保管場所を提供します。
- スマホアプリを使用して簡単にカギやICカードを管理できます。
- 施錠忘れや情報モレが無く、ダイヤル式よりも高セキュリティを実現します。
- 様々な場所に設置可能で幅広い用途に対応。あらゆる場面で活躍します。

屋外設置可能
(IP55対応品)

製品紹介



【共同開発】

Keiden(ケイデン)ブランドでのカードキー・セキュリティ機器の製造販売で50年の歴史を持つ株式会社Keidenと共同で開発
「JL Lockフェス2023 in Tokyo」に出展(9月)

免責事項

本資料に記載されている資料には、将来に関する業績の見通しを含みますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権はジーエルサイエンス株式会社に帰属します。事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。

【当資料に関するお問い合わせ先】

ジーエルサイエンス株式会社

TEL : 03-5323-6633

FAX : 03-5323-6636

URL : <https://www.gls.co.jp>

支える、あらゆる分析を。

Separation Sciences for All

